

激励と連帯のご挨拶

「9. 14脱原発アクション in とやま」に参加された仲間の皆さんに、心より激励と連帯のご挨拶を申し上げます。

皆さん！ 社民党は、原子力発電は「地震などによる事故、放射能による災害リスクなど恒常的な問題を抱え、核廃棄物を排出し、処理方法も未確定であり」、「現在の電力のために千年・万年の単位の子々孫々の代まで、核のゴミを残すようなことは許されない」として、全政党の中で唯一「脱原発」を掲げ、自然エネルギーへの転換を訴えてきました。3月の福島原発の事故は、不幸にして私たちの指摘の正しさを証明し、「原発安全神話」を打ち砕きました。

この事故の結果、約8割の国民が「原発の段階的廃止」を求めるようになりました。今こそ「原発にさようなら」をし、太陽光・風力・水力・天然ガス・地熱発電、燃料電池など自然エネルギーに早急に転換すべきです。そのため、社民党は5月に『脱原発アクションプログラム』を発表しました。主な指標は、①新規原発の建設は中止し、震源域立地や40年を超える原発は廃炉にし、稼働中の原発には厳しい安全基準を適用する、②2020年までに原発をゼロにし、その間、自然エネルギーを拡大していく、③2050年には自然エネルギー100%の日本にする—というものです。

しかし、野田首相は、昨日開会した第178臨時国会の所信表明演説で、「中長期的には原発への依存度を可能な限り引き下げていく」とする一方、「定期検査後の再稼働」を進めることを明言しました。また、枝野経済産業相も就任会見で、再稼働に前向きな姿勢を示しました。私たちは、安易な原発の再稼働に走る野田内閣と、厳しく対決していきます。そして、原発依存のエネルギー政策から脱し、自然エネルギーへと転換していくために、皆さんと共に大衆運動を強化していきます。

私も皆さんと固く連携し、国会内外の闘いに全力を尽くす決意を申し上げ、激励と連帯のご挨拶と致します。共に頑張りましょう。

参議院議員・社民党副党首 又市 征浩

